広報
№471
おだわら
編集発行　小田原市役所広報課　〒250　小田原市荻窪300番地

昭和62年 11月15日

人口	世帯	（10月1日現在）
人口	188,977人	（前月比＋110人）
世帯	58,233世帯	（前月比＋19世帯）

子ども会文化祭 第1回 を開催
今市市・岸和田市の参加も

十一月二日市民会館で、第一回の子ども会文化祭が行なわれました。今まで、子ども会の行事はスポーツ関係が多かったので、文化事業にも力を入れようと検討が続けられていましたが、二宮尊徳生誕二百年を記念して今年から始められたものです。

今回の文化祭には、市内二十六学区の子ども会が参加し、また、姉妹都市寄居町と友好都市岸和田市からも参加があり、児童たちは大ホールでの合唱や劇、また展示室での書道や絵の展示練習の成果を発表しましたが、市内から集まったたくさんの子ども会の子どもたちや会場はいっぱいでした。

文化祭は、今後も子ども会の文化事業として続けられます。

熱気でむし暑い感じさえ…　合唱などがくりひろげられました

ミカン　みかん　ミカン　みかん　ミカン

農家の指導で正しいもぎ方を学ぶ

収穫や糖度の測定を
小学生の農業体験学習会で

十一月八日、根府川地区でミカンの収穫を体験する農業体験学習会が開かれました。

この学習会は、農業に接する機会のない子どもたちに実際の農作業を体験し、農業に正しい関心を持ってもらうために、小学校四年～六年生を対象として開催されました。

参加した小学生たちは収穫を行なった後、糖度計でミカンの甘さを計ったり、県園芸試験場根府川分場でミカンやキウイフルーツの説明を受けて、一日ごろ見ることのできない農業の姿を体験し、大喜びでした。

あなたの写真を フォトニュースに

市はみなさんから写真を募集しています。

昨年度から市は、市内の出来事や催し物、風物などを写真で紹介する「おだわらフォトニュース」を発行していますが、次回（12月15日に発行予定）のフォトニュースに使う写真を公募することにしました。

このフォトニュースは市内の学校、公共施設、病院、企業機関などに掲示され、みなさんに親しまれています。

今回募集する作品は2点です。あなたの自慢の腕でカメラに収めた作品をどしどお寄せください。

なお、今後も機会を見て作品を公募する予定ですので、ご期待ください。

◆市内の秋の行事など「ミカンまつり」「農業まつり」「いこいの森まつり」などの行事など
◆フィルムのサイズ　カラーポジフィルム　35ミリ、6×6、6×7サイズ
◆募集方法　撮影したフィルムに簡単な説明（100字程度）を付けて応募してください。郵送でも受け付けます
◆募集できる作品　今年の1月以降に撮影した写真で、未発表のもの
◆募集数　制限はありません。何点でも結構です
◆応募資格　市内在住の方
◆締切り　11月30日
◆応募先　〒250 小田原市荻窪300 小田原市役所広報課広報係
◆審査　市が委嘱する審査員が審査します。審査の結果は採用者に電話で通知します
◆賞品　採用作品には記念品を、応募者には参加賞を差し上げます
◆著作権　採用作品については、市に帰属します。また採用作品は返却しません
◆問い合わせ　広報課広報係　☎0132-61

さかなまつり

さかなまつりが今月の七日の土曜日と八日の日曜日に開催されました。これは、魚介類や水産加工品に対する消費者の認識を高め、食生活の向上を図り、併せて水産業界の振興を図るために、毎年開催されているもので、今年で二十九回目を迎えます。会場となった市民会館では、生鮮魚介類・参考料理・活魚の展示、料理の実演、氷の彫刻、即売、魚に関する映画の上映、小学生の絵画の展示など多彩な催しが行われ、子どもからお年寄りまで、大勢の人出でにぎわいました。

会場は大にぎわい

展示　即売　実演などが

新鮮で安い即売は大人気

小田原には四つの港・大きな魚市場があり、沿岸漁業やかまぼこ・干物などを水産加工品など、漁業や関連産業が盛んです。食卓に上るさかなが何という名前であり、それがどこで捕れ、どのような経路を通って、どのように調理されるのか、十分に知ってもらうこと、さかなまつり開催の趣旨です。

毎回好評の魚の展示は、今年も大変大入りがありました。会場一杯に、小田原沿岸の漁場で上がったフレッシュな魚などの近くの魚からだんだん見るにつれ、遠くの魚や深海魚まで、百五十種類や百貫の魚が展示されました。

四十二キロで、鋼身にすると千五百人分もとれる大きさでした。このほか体長二メートルを超えるイトマキエイやカリキアロなどと珍しい魚もありました。

人主婦に人気があったのが生鮮魚介類や水産加工品の即売でした。当日の朝、定置網で捕れた新鮮な魚や、キンメ、マグロ、アジ、ハナチ、カマスなどの魚介類のほか、かまぼこや干物などの水産加工品、あわせて十二トンが市価よりも二割から四割も安い即売されました。

魚の方法などの紹介をされ、お母さんたちが熱心に見入っていました。

また、生きたままの魚、イトヒキアジ、ミノカサゴ、キンセンタイなど変種魚の鑑賞魚を中心に展示されました。

料理実演のコーナーでは、大変おいしい一品一品の料理が紹介され、焼けばよりに売れていました。

さかなの色などの展示場は、耳や目や手を通じて、さかなについて、いろいろなことを知り、たくさんの買い物をする人たちでいっぱいでした。

さかな料理の実演を熱心に

税の作文コンクール

優秀賞に市川絵理さん

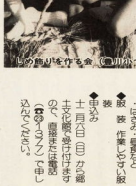
「中学生の税に関する作文」コンクール表彰式が、二十五日（水）午後二時三十分から市庁舎議場で表彰状の入賞者が決められました。

コンクールの入賞者は次のとおりです。

しめ飾りを作る会

参加者を募集

郷土文化館では恒例の歳末行事として、「しめ飾りを作る会」を開催します。奮ってご参加ください。



しめ飾りを作る会（昨年）

おしらせ・おしらせ

市税資制度のご利用を

市内の中小企業者を対象に融資を行っていますのでご利用ください。

（中小企業小口資金）

◆運転資金　貸付限度額300万円以内（期間一年以内、6カ月据置）

◆設備資金　貸付限度額500万円以内（期間一年以内、6カ月据置）

◆運転資金・設備資金併用資金　貸付限度額500万円以内（期間一年以内、6カ月据置）

◆申込み・問い合わせ　商工課商業係へ

（中小企業振興資金）

◆運転資金　貸付限度額300万円以内（期間一年以内）

◆申込み・問い合わせ　市役所別館産業一課

農地転用許可申請等の受付

市街化区域以外の地域で用途地域（農業振興地域の整備に関する法律第三条第一項の規定による農用地区域）内の農地を転用する場合は、農地法第四条の規定による許可申請が、また、農地を売買したり、貸借する場合は、農地法第三条の規定による許可申請が必要です。

なお、市街化区域内の農地については、従来どおり農業委員会への届出で足ります。

詳しくは、農業委員会

版画教室参加者募集

国際都市とは「さまざまな国籍の人々が集う都市」のことです。

この講座は、「さまざまな国籍の人々」の一員として、外国人の方々と一緒に楽しく学習しながら、国際都市小田原の一員としての自覚を高めるとともに、国際交流の輪を広げていくことを目的としています。

今年は、「版画」を通して、日本の文化や伝統を学習しながら、外国人の方々と交流を深めていきます。

◆日　一回　午前中後各四人（先着順）

◆料金　50円（当日納めて下さい）

◆講師　勝亦博子さん（図書館児童文化専門委員・山王小学校教諭）ほか

◆申込み　電話で（☎0465-23-0505）で申し込んでください。

◆持ち物　筆記用具、はさみ、のり、セロハンテープ（下書き用）、手ふき

◆その他　図書館児童文化係に、直接又は電話で（☎0465-23-0505）で申し込んでください。

◆日　時　十月二十日（日）午前の部二十分～午後の部二十分

◆会　場　郷土文化館会議室

◆対　象　小学校四年生以上（一般）

◆定　員　三十人（先着順）

◆参加費用　千円（材料費）

◆指　導　鹿沢一志さん

◆参加するための　筆記用具、はさみ、のり、雑巾、作業しやすい服装

◆申込み　十月六日（日）から郷土文化館へ参加費用を添えて直接または電話で（☎0465-23-0505）で申し込みください。

20の手で作りましょう。

◆日　時　十月二十日（日）午前の部二十分～午後の部二十分

◆会　場　郷土文化館会議室

◆対　象　小学校四年生以上（一般）

◆定　員　三十人（先着順）

◆参加費用　千円（材料費）

◆指　導　鹿沢一志さん

◆参加するための　筆記用具、はさみ、のり、雑巾、作業しやすい服装

◆申込み　十月六日（日）から郷土文化館へ参加費用を添えて直接または電話で（☎0465-23-0505）で申し込みください。

珍しいさかなに目をみはって

自立更生者を表彰
川口伴七さんと摩治秀彦さん

秋たけなわの十月十八日に自立更生者が市長から表彰されました。この日は、城内小学校校庭で障害者スポーツレクリエーション大会が開催されましたが、表彰式は、その開会式で行われました。

自立更生者市長表彰は、市内に住む心身障害者で、障害を立派に克服し社会復帰した方を表彰するものです。

今回表彰されたのは、次のお二人です。

川口伴七さん

小学校卒業後、表具師へ奉公にいく。昭和十八年戦地で受傷。昭和二十一年復員後現住所（多古）で表具店を開業し、現在に至る。戦後の混乱期の中、両耳の不自由にもかかわらず、持ち前の忍耐と努力により、独力で表具店を開業経営し、現在は後進の指導にも当たっています。また、昭和四十九年からは傷い軍人会の役員としても活躍されています。

摩治秀彦さん

生後八か月で、骨髄炎に罹患。中学卒業後、福岡市内の洋服店に就職し、洋服仕立ての技術を習得。昭和三十九年、市内の加藤洋服店に住み込みで就労。昭和四十五年に現住所（寿町）に転居。また、昭和五十八年からは、肢体障害者福祉会の役員としても活躍されています。

ミニミニ法律メモ
離婚時は養子 離縁も忘れずに

子ども連れで母親が再婚し、相手である夫がその子どもと養子縁組し、その後、母親は離婚し、子どもは母親のもとで成長する、ということがあります。このときに、養子離縁をしておかないと、後になって突然、養父の借金の請求がきたり扶養の義務を課せられたりする、という問題がよく起きます。

このようなことにならないように、母親は離婚する際は、養子離縁についても検討することを忘れないようにしましょう。

◆問い合わせ　市民相談室☎㉝1383

八町の二十五の中学校から千六百五点の作品が寄せられました。十月六日に行われた審査の結果、本市では二十五人の方の作品が入賞しました。この中で優秀賞を受賞した作品は県を通じて全国コンクールに出品されます。

なお、小田原足柄納税貯蓄組合による表彰式を、十一月

◆優秀賞
「税について」市川絵理（千代中三年）「税金への思い」伊東瑞穂（城山中三年）「税について考える」梶謙一（泉中三年）「吾輩は税金である」古川孝行（城北中三年）「税金について」平岡洋子（国府津中三年）

◆優良賞
佐藤暁子（城山中）石井友佳子（白鴎中）石井由美（白山中）山川有紀子（白山中）下田佳子（白山中）窪津晶子（鴨宮中）内尾美輝子（千代中）内田真由美（酒匂中）一斗久美子（片浦中）石黒かおり（泉中）

◆佳作
山崎愛子（城山中）衛藤和子（城山中）村山美香（城南中）前野裕美（国府津中）森本晶子（片浦中）香川仁（泉中）大石和美（泉中）山口大介（城北中）塩塚剛史（城北中）高須賀京子（城北中）

連載随筆 二宮尊徳
尊徳の思想 I
高田稔（元・市教育研究所長）

《第8回》

二宮尊徳が、その後半生において難村復興にみせた優れた現実的処理の仕方は、単に彼の経験からもたらされたものではない。その中心的な骨組みに独自の哲学があったからである。

彼はすでに述べたとおり幼時から読書を好んだ。その読書法については「少年のとき孤児となって親類の家に寄食し、昼夜ひどく働いて少しも余力がなかった。それでも昼の弁当のとき、人は湯を沸かしてお茶を入れたが私は冷飯に水を飲んで、その暇に大学を読んだ。あるときは柴かりの道で読誦し、あるときは耕作の暇々に読み、あるときは人が寝静まってから、そっと看てようやく四書だけ一通り習った」といっている。

尊徳が実際に読んだ本は四書（大学・論語・中庸・孟子）のほかに、五経（易経・詩経・書経・春秋・礼記）や史書、仏書などに及んでいる。

彼の儒学研究が一段と進んだのは、彼の遺した日記から推測して二十五歳ごろから三十歳ごろであったと思われる。この間、四書五経などの自習書「経典余師」を大金を投じて買っており、また服部家住み込み中は若殿の供をして儒学塾に通い、ここで藩儒・宇野権之進に認められ、服部家から帰ったのちまで、その指導を受けたようである。

しかし、尊徳は生涯を通しての特定の師はもたなかった。また、これといった学派にも属していない。朱子学でもなければ陽明学や古学でもなく、経典の解釈はまったく自由な立場をとっている。

彼の学問に対する態度は、おのれの個人的体験を書物で吟味することによって、その体験を客観化、普遍化することにあった。この徹底した経験主義がしばしば独創的な思想を生みだしている。

天道と人道

朱子学では、道徳や君臣、親子の上下関係は月日の運行と同じく天が与えた権威ある道（天道）であるから、動かすことのできぬ絶対のものとされていた。だから天道に従うことが人として守るべき道（人道）であるという「天人一致」の思想によって貫かれていた。

ところが、尊徳はそれは違うというのである。彼によれば、寒さがすぎれば暑さがくる。夜があければ昼になる。万物が生ずればまた滅びる。これは天道である。

また、天は生物すべてに恵みを与えるが、善悪の心はもたないから稲と雑草の区別はしない。それを放っておけば田は荒地にもどってしまう。これも天道なのだ。

人は天道にしたがって生まれてきたけれども、米を作ることを善とし、雑草をはびこらせることを悪として田から雑草を取り除くことに努めねばならない。それが人道なのだというのである。

彼はまた、こうもいった。「天動に任せれば堤はくずれ川は埋まり、橋は朽ち家はくさる。人道はこれに反して堤を築き川を浚い、橋を修理し屋根をふいて雨のもらぬようにすることだ」

また、人間の心のうちにも天道の部分がある。利己心などがそれだ。そういう利己心に従って奪い合うことは、鳥獣と同じ天道で、譲り合うことが人間にしかできない人道である、ともいっている。

このように、尊徳は一方で自然の恵みを認めながらも、自然に対する人間の力を強く主張した。

この「天人分離」の考え方は、近世思想史のなかで、古学派の荻生徂徠の流れに沿うものであるが、それを更に一段と押し進めたものであるといわれている。

四書五経の自習書「経典余子」

「経典余子」の「大学」の解説

北方領土　明日の復帰へ今日の声

おしらせ・おしらせ・おしらせ・

より多くの人に参加していただくために、午前の部と午後の部の二回に分けて行いますので、奮ってご参加ください。

◆日時　12月6日(日)
○午前の部　午前9時～11時30分
○午後の部　午後1時～3時30分
◆会場　図書館会議室・子どもクラブ室
◆対象　小学校3年生～6年生

事務局（☎㉝1748）へ

小学校体育大会の結果（追加）

11月1日号掲載記事の小学校体育大会の結果のうち、女子走り高跳びの優勝者（同記録で2人が1位）を追加します。

○国原芳美（千代）　1メートル32＝大会新記録

知っていますか 犬の習性

犬には次のような習性があります。犬による事故を防ぐには、この習性を理解して、接することが必要です。

◆犬はよく服従する
○飼い主が変わるとなじまないことがよくある
○飼い主のそばにいると気が強くなる
○しつけをすることができる

◆犬は警戒心が強くナワバリを持つ
○ナワバリ内に入るものを攻撃することがある
○知らない犬に触ったり、子持ちの犬に近付かない

◆犬には狩猟本能がある
○犬の前で急に走り出すと追い掛けることがある

◆犬は穴を掘る
○囲いから穴を掘って抜け出すことがある

◆問い合わせ　生活環境課☎㉝1486・保健所環境衛生課☎㉒3135

飼えない犬猫 引き取ります

11月の引取日は、27日(金)。時間と場所は表のとおり。次のことに注意してください。①印鑑を忘れずに②停車時間は10分間。遅れないように③猫は麻袋又は布袋等に入れて④14日以内に人をかんだ犬は引き取りません。人をかんだことを保健所へ連絡を⑤大型犬・傷病犬猫・人をかむくせのある犬は直接県動物保護センターへ。

◆保健所　犬は月曜～金曜、猫は祝日以外の水曜、いずれも午前8時30分～10時に引き取ります

◆動物保護センター　平日は午前9時30分～午後4時、土曜日は午前9時30分～11時に引き取ります。犬猫についての苦情、相談や野犬の捕獲依頼も保護センター（☎0463㊽3411）へ

◆問い合わせ　生活環境課☎㉝1486　保健所環境衛生課☎㉒3135内線31・32

《引取場所と時間》

引取場所	時間
片浦支所（寺山神社）	9時30分
早川支所（駅前駐車場）	9時55分
大窪支所	10時10分
中央連絡所（めがね橋）	10時30分
市役所（西側駐車場）	10時50分
富水連絡所	11時15分
桜井支所	11時35分
曽我支所	13時00分
下曽我支所	13時20分
上府中支所	13時35分
豊川支所	13時55分
下府中支所	14時15分
酒匂支所	14時40分
国府津支所	15時00分
橘支所	15時20分

ぼくの学校 わたしの学校

下中小学校《29》

輪投げ屋もにぎわう手作りの下中まつり

私たちの下中小学校は、小田原市の小学校の中で一番東にあり、今年で九十六年の歴史を持つ伝統ある学校です。自然に恵まれたとてもすばらしい所で、北に四季おりおりの美しい姿を見せる丹沢の山々が望めます。近くには桜の馬場という桜の名所があり、春になるとお花見の人々でにぎわいます。

学校のまわりには田畑が多く、一年中違った農作物を見ることができます。また、牛をかっている農家が多いのも下中地域の特色です。

校庭の東側には、農家の畑の一部をかりた学校農園があります。毎年、ジャガイモ、サツマイモ、トウモロコシ、ホウレンソウなどを作り、収かくしています。

このように、私たちは豊かな緑に囲まれているので、たいへん落ち着いたふん囲気につつまれて生活しています。

それでは、本年度の児童会の行事を紹介します。

児童会の行事は、一年生から六年生までを六十班に分けたたてわりグループをもとに活動しています。

五月には、新入生歓迎の小運動会を行いました。一年生でも簡単にできるようなやさしい種目を工夫し、楽しいひとときをすごしました。

七月には、初めての試みの「下中まつり」を行いました。おみこしコンクールやお店屋さんごっこなどを楽しみました。おみこしの数は二十台。各グループがそれぞれアイデアを出し合い、はなやかなおみこしができあがりました。

お店の方は、ボーリング屋、お面屋、輪投げ屋など多数のお店がたちならびました。どのお店も大にぎわいで、来年もぜひやりたいと大好評でした。

今後の予定としては、「オリエンテーリング」や「お正月集会」を行いたいと思っています。

これからも児童会では全校のみんなが協力し合い、楽しい学校生活ができるような行事を行い、思いやりにあふれた学校にしていきたいと思っています。

（児童会代表 久保村知彦）

開校年月日　明治二十四年九月一日
学級数・児童数　十九学級　六百八十二人
教職員数　二十五人

わたしの提案

◎下水道整備計画のお知らせ

■下水道の整備計画を広報紙等でお知らせください（酒匂 内田佐七さん63歳）

川東地区に下水道の左岸処理場ができて既に数年たっていますが、地区の配管計画がよく分かりません。広報紙等でお知らせください。

◎お答え

市の下水道は昭和三十四年に整備事業を始め、着々と整備区域を拡大してきました。

下水道管の埋設工事にご協力を

また、県の酒匂川流域下水道事業は、左岸処理場が五十七年に処理を開始し、右岸処理場も現在建設の準備が進められています。

ご存じのように、下水道管の布設には多額の経費を必要とします。市では、年次計画に基づいて下水道の整備を進め、やがては全市域を整備していきます。

ご指摘の地域の事業計画については、それぞれの地域の事業の着手のときに広報紙でお知らせしています。また、毎年四月には、三年以内に水洗化区域となる地域を広報紙でお知らせしています。

なお、酒匂地区も順調にいけば数年のうちには整備される予定ですが、しばらくの間ご不便をお掛けします。

この件についての詳しいことは、下水道部建設課（☎㉝1623）までお問い合わせください。

おしらせ・おしらせ

給配水管の漏水調査にご協力を

水道部では、給水管や配水管が漏水していないか調査をしています。来年3月15日まで、市街地と酒匂、国府津地域の漏水調査を業者（㈱ニッシン水道研究所）へ委託して行いますので、調査員が宅地内に立ち入る際はご協力をお願いします。11月は酒匂、鴨宮方面の区域を調査します。

なお、市の郊外については市の職員が調査を行います。

調査員が宅地内を調査し、宅地内で漏水している場合は、その場で指導しますのでご協力ください。

調査員は腕章を付け、身分証明書を所持しています。

◆問い合わせ 工務課 ☎㉝1667

燃えないゴミの分別収集を

市では、燃えないごみの収集を三週間に一回（一部の地域を除く）の日程で、市内全域において実施しています。

最近、燃えないごみの中にプラスチック製おもちゃ、台所用品の容器、履物類等の燃えるごみが混入されて、持ち出されています。これらの分別はご家庭で、缶、金属類、びん類、使用済乾電池、その他資源化できないものに分け、決められた収集日の時間内に、設置されたボックスの中に分別して入れてください。

また、分別収集が行われていない地域についても、燃えるごみは混入しないようご注意ください。

なお、夜間にごみを持ち出す方がありますが、近所の方の安息時間に騒音等の迷惑を掛けることになりますので、指定された期日の時間を必ず守って搬出するようにしてください。

ごみに関するお問い合わせは、環境事業センター（☎㉞7325）へお願いします。

水道の修理は修理センターへ

家庭の蛇口故障や水道管破裂などの修理は、管工事協同組合の水道修理センターへ。特に希望がある方は公認業者に直接申込みを。ただし、公認業者以外は修理できません。

公道内の水道管は市が無料で修理します。漏水箇所を発見されましたら工務課維持係へ連絡を。宅地内は有料です。

蛇口パッキングの取替えは自分でできます。公認業者か水道材料店でパッキングを買い、メーター器内の止水栓を止めてから修理を。なお、橘地区については県営水道です。詳細は県企業庁水道局二宮営業所（☎0463㉑8111）へお問い合わせください。

◆問い合わせ 水道修理センター ☎㊲3720 工務課 ☎㉝1667（夜間☎㊷2554）

小学生と保護者の公共施設見学会

冬休みの一日、親子で参加する公共施設見学会を開催します。参加費は無料ですので、奮ってご参加ください。

◆日時 12月25日㊎午前9時～午後3時
◆対象 市内の小学生と保護者（4年生以上は保護者同伴でなくても参加できます）
◆定員 40人（20組）
◆見学施設 市のマイクロバスを利用して消防署、青果市場、高田浄水場、環境事業センター、緑化センターを見学
◆用意する物 弁当、水筒
◆申込み 11月30日までに広報課広聴係（☎㉝1263）へ電話で申し込んでください。定員を超えた場合は抽選です。

おしらせ・おしらせ

伝言板

パソコン教室に参加しよう

小田原高等職業技術校では、パソコンに興味のある方を対象に次のとおりパソコン講習会を開催します。ご参加ください。

◆日程
○BASIC入出力文 12月9日㈬、10日㈭、11日㈮の3日間
○BASIC演算と配列 12月14日㈪、15日㈫、16日㈬の3日間
時間はいずれも午前9時30分～午後3時30分
◆会場 小田原高等職業技術校（板橋726―1）
◆対象 パソコンに興味のある就職している方及び就職しようとしている方
◆定員 20人
◆受講料 無料
◆申込み 11月16日から受け付けます。当校に備え付けの申込用紙に必要事項を記入の上、当校受付に提出してください
◆問い合わせ 県立小田原高等職業技術校 ☎㉓2275

港湾短大で学生を募集

来年4月、横浜に港湾職業訓練短期大学校が開校します。この学校は雇用促進事業団が港湾産業界の要請にこたえて設置しますが、次のとおり学生を募集しますのでお知らせします。

◆科目 港湾流通科、港湾運輸科
◆定員 各科目20人
◆応募資格 高校を卒業した方（来年3月卒業見込みの方を含む）又は、これと同等以上の学力を有すると認められる方
◆願書受付 1月18日㈪～2月3日㈬
◆試験日 2月24日㈬
◆試験会場 神奈川県薬業会館（JR根岸線、根岸駅下車徒歩2分）
◆試験科目 英語、数学、国語
◆受験料 1万2千円
◆年間授業料 16万7千円（入学金は不要）
◆合格発表 3月3日㈭
◆問い合わせ 港湾職業訓練短期大学校横浜校開設準備室（〒231横浜市中区本牧ふ頭1番地）☎045・621・5999
◆入学試験要項は郵送料240円（郵券可）を添えて同準備室へお申込みを

江の島で女性映画のつどい

今、多様化する家族の形態や「家族」とは何かを、映画の後、講師の話を聞き、話し合い、考えます。

◆日程・作品 〈11月〉21日「家族ゲーム＝'83日本」 28日「鉛の時代＝'81西独」 〈12月〉5日「プレイス・イン・ザ・ハート＝'84米」 12日「エミリーの未来＝'84西独・仏」 19日「芽ばえ＝'74インド」
◆講師 フリーライター 村瀬春樹さんほか
◆会場・時間 県立婦人総合センター 午後1時～4時
◆定員 各日500人（28日は50人）
◆入場料 無料
◆申込み及び問い合わせ 県立婦人総合センター生涯学習部 ☎0466㉗2111